

URBAN
AMENITY
ENGINEERING
Lab.

UAEEL

No.12
2014.10

2. 巻頭言 3-4-5. 夏期集中研究 6. 建築学研修
7. 学生自主研究, 新メンバー紹介, 教員・院生の活動報告 8. OB・OGの今, information



「足助のたんころりん」山口邦雄 撮影



秋田県立大学 建築環境システム学科 計画学講座 都市アメニティ研究室

「エコ電球」をめぐる

先日、電球を買いに行ったら、蛍光灯とLEDばかりで驚いた。白熱電球は多くが製造中止になっていると頭では分かっていたが、既に店頭から消えつつある事実を今更ながら実感させられた。私は今でも白熱電球を使う。運用時のエネルギー消費だけを考えたら蛍光灯やLEDが良いであろう。しかし、蛍光灯は水銀、LEDは鉛や砒素、ニッケル等が使われている場合がある。これらが廃棄後に外部環境へ拡散されることの有害性は全国的に使用されている数まで考えると運用時の省エネ性とトレードしてよいレベルとは思えない。廃品業者が回収して適切な処理を行えば外部環境への放出は抑えられるだろう。だが、蛍光灯やLEDは一部の人が使う特殊な製品ではないし、廃棄処分の機会が減多にないものというわけでもない。特にLEDは多くの製品に組み込まれてしまっただけで廃棄時に分離させることが難しい。電池やインクカートリッジのようにリサイクルの流れが確立しているとも言い難い。そうやっていろいろ考えると、白熱電球を使って、こまめに消灯することが、現時点では最も環境負荷の低い行為ということになる。

それから、もう一つ興味深い話がある。ある人によると、瞑想(イメージング)を行うにあたって、電灯をつけた室内で行う場合、蛍光灯を使った部屋では効果的に行えないのだそうだ。だから白熱灯を使う部屋か、蛍光灯なら間接照明にした部屋を使うらしい。理由は分からないが、人体が瞑想を行えるほどのリラックスした状態にならないのかも知れない。人体は脳と肉体が別々の反応をすることがある。肉体は潜在意識と直結しているので頭での理屈による解釈と違って直感的だ。蛍光灯やLEDを頭では良さそうに感じていても体は拒否しているということだろうか。

そういうことで私は白熱灯を愛用している。残念ながら大学の研究室は蛍光灯だが、本当は自分の部屋も学生の部屋も白熱灯だけにしたい。良い知恵はないものか。



浅野 耕一 (あさの こういち)
建築・都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野



続・本荘中心市街地の再生

●空間整備に対応した地域マネジメント

アドバイザーとして関わっている市内大門・本町通りの拡幅と沿道景観形成の取組みを本誌7号(2012.5発行)にて紹介した。現在、30億円以上の事業費のもとで詳細設計のための歩道面の仕上げ、ポラードデザイン、街路灯・植樹の位置などの調整打ち合わせが、まちづくり委員会と県地域振興局との間で行われている。

そのまちづくり委員会が、国民文化祭の行事の一貫として商店街スタンプラリーを10/4(土)に実施した。いや、整備したからイベントをやろう、ということではない。用地買収が進められている今だからこそ空間整備に相応しい商店街としての活性化方策を模索し、きたるべく整備後に更に発展させようという取組みである。中心市街地地域マネジメントの萌芽と言えよう。当日は参加者が店内で話し込むなど地域商店街らしい姿が甦り、第1回目の取組みは成功した。

●まちづくりと都市計画

まちづくり委員会は、商店街の売上アップを目的とした会ではない。安全・快適で、中心市街地として賑わいを取り戻すことが目的である。そして、道路拡幅、沿道景観形成に向けた「地区計画」の都市計画決定、「まちづくり協定」の締結のハード整備だけでは地域再生・活性化とはならないことを知っている。「仏作って魂入れず」に陥らないよう、ソフト対策にも力を入れているのである。

しかし、ある行政関係者から「道路拡幅が決まったのだから、いつまでそんな活動をしているのか?」と言われたという。これだから困る。地域再生・活性化と都市計画の関係を、実のところはまるで理解していないと言わざるを得ない。いつのまにか、住民の方が「まちづくり」と「都市計画」の関係を深く理解するようになったようである。

●石脇通りへの眼差し

さて、今年の研究室夏季集中研究は、大門・本町通り先を右折した先にある石脇通りをテーマにして実施した。歴史的景観の残る通りである。今週末には、地域発表会「石脇通りの明日を考える会」を地元で開催する。町内会のみならず、地域文化団体や地元企業も来場して頂けるということで、本荘中心市街地の再生物語がもう一つ増えそうである。

山口 邦雄 (やまぐち くにお)
建築・都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野



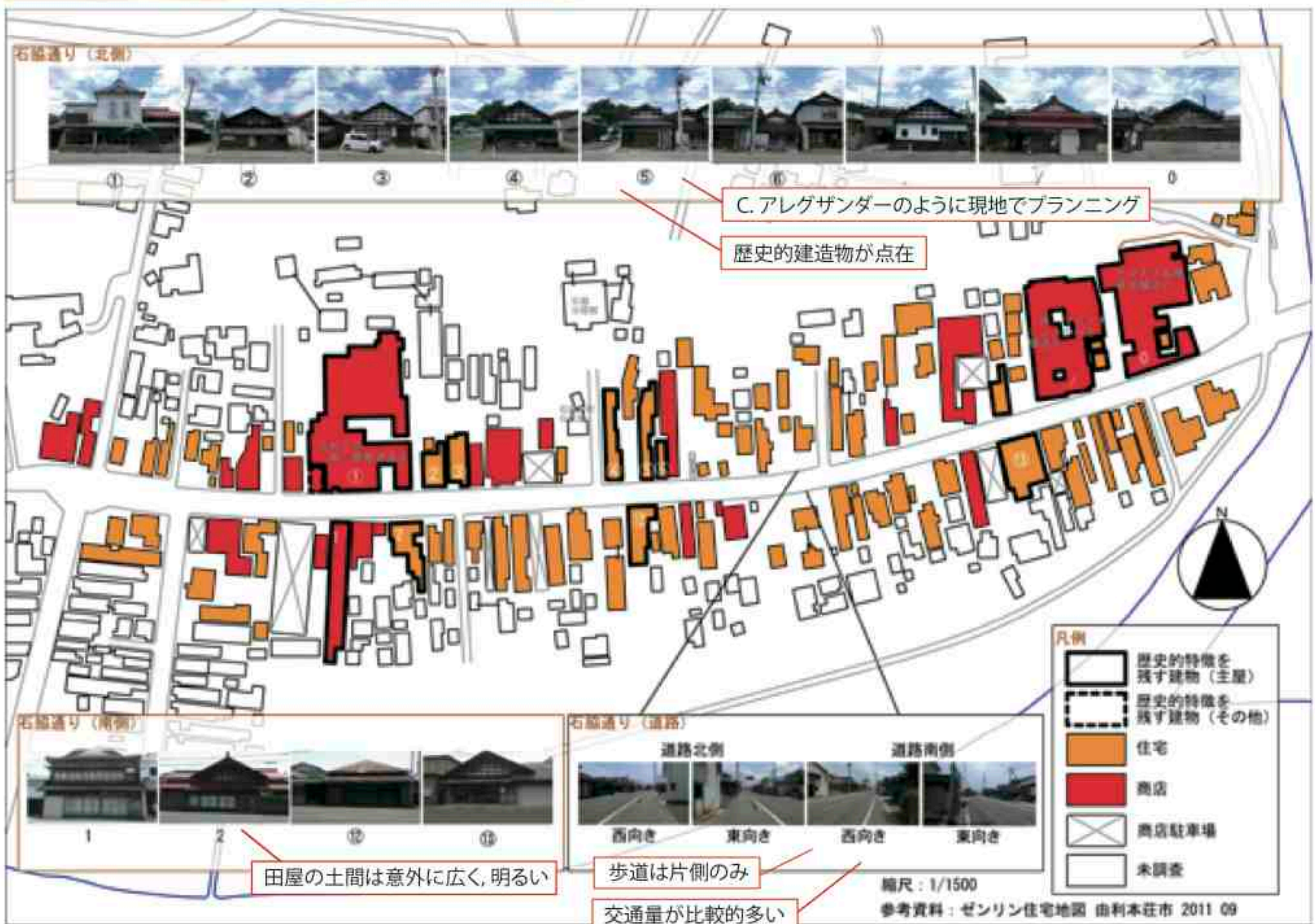
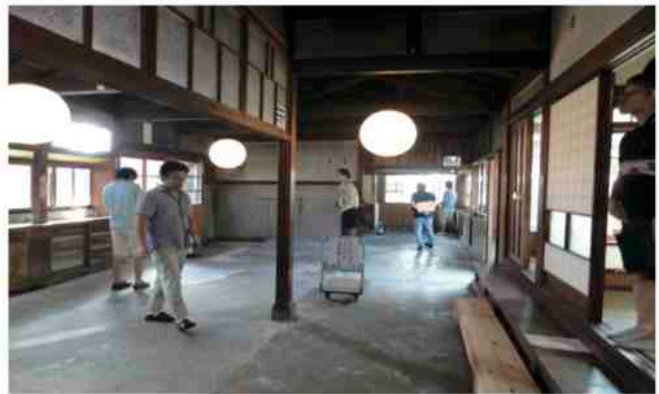


夏合宿の概要 (8/30~8/31)

今年で8回目となる夏合宿では、本荘市街地における歴史的環境の残る石脇地区の今後のあり方を考えるため、基礎調査としてA班(街並み再生班)とB班(町家活用班)の2班で石脇通り沿道の住民に聞き取り調査を行いました。その後、A班は石脇地区の街並みの特徴について調査し、B班は田屋周辺の調査をそれぞれ行いました。

2日目は初日の調査内容を元に、A班は石脇地区の現状の説明と今後の街並みの整備像について作成したもの、B班は実際の空き家活用の事例・補助金の事例を元に田屋の活用案をそれぞれ発表しました。

ご協力頂いた地元3町内会、石脇地区の歴史・文化を語る会、齋彌酒造、由利本荘市都市計画課の方々には感謝申し上げます。



建物の外観デザイン性の統一

石脇地区にみられる歴史的建造物の特徴を沿道の建物に反映して修理する。通り一体に歴史的な建物がみられ、自然と歴史を感じられる通りになる事を望む。

特徴：切り妻妻入、白色の外壁、妻側に木組格子（黒茶色）



ブロック塀の板塀化

通りにみられるブロック塀を板塀に変える事で、通りの連続性が出るように修景する。また、駐車場等の前にも板塀を整備することで、通りの連続性が途切れないようにする。



歩道の石畳化

現在はコンクリートとなっている歩道を石畳化し、昔ながらの通りを感じられる歩道に整備する。芋川橋にみられる石畳との繋がりを意識し、芋川橋から先の街並みとの繋がりも今後検討する。



ポケットパーク整備構想

現在では利用頻度の低いと考えられる公園をポケットパークとして整備する。石脇地区住民や周辺の学生といった、普段触れ合う機会の少ないコミュニティ同士の交流の場とする。



水資源の活用

石脇地区の特徴のひとつに水資源がある。現在では使われていない水資源の利活用をする。季節を感じつつ住民同士の交流が生まれることを望む。

石脇裏道路構想

石脇通り南側に車が通れる道路を整備する。前面道路の南側では歩道が整備されていないため、停車をしての物資の移動は危険がある。そこで、裏道路を整備することで、安全に物資の移動を可能にする。

石脇通りの再生（A班）

本荘市街地における石脇地区の位置づけと、石脇地区の今後の整備像の案について説明をしました。石脇は本荘市街地において歴史的街並みがまともに残っている唯一の地区であるため、整備する価値があります。石脇地区の歴史的建築物の利用とその周辺の街並みの整備案として、

- ①街並みの連続性を持たせるために建物の外観デザインの統一
- ②石脇地区の特徴の1つである水資源の活用
- ③歩行者優先道路構想

といった案を発表しました。

畠山大輝



齋藤 浩太郎さん（齋彌酒造代表取締役）から



新米の収穫と共に、今年も酒造りが始まろうとしている。酒造の営みは得意先が約四十ヶ国に広がる等、百十余年の間に大きく様変わりしてきた。その一方、地元石脇の街並みは往時の活気という面での役割を終え、今後は視点を変えた展開が必要と感じている。「和食：伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産登録や、東京オリンピック開催等を通して日本文化がさらに広まろうとしている今だからこそ、小さいながらも守られてきた地域文化・芸能・歴史といった地域資源の魅力を大切にしていきたいと考えている。

田屋の利活用像 (B班)

コンセプト

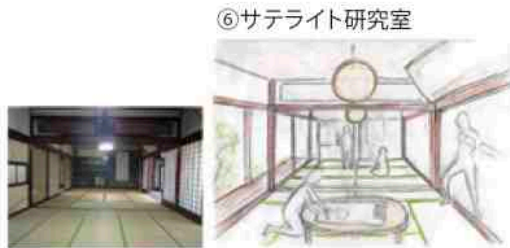
地域住民・大学生と交流が持てる場所

機能

1. 石脇地域のイベントや歴史等の情報発信
2. 活動の休憩コーナー
3. Cafe及び地域の催し物の会場
4. 大学のサテライトキャンパス



①外観・交流スペース・情報発信



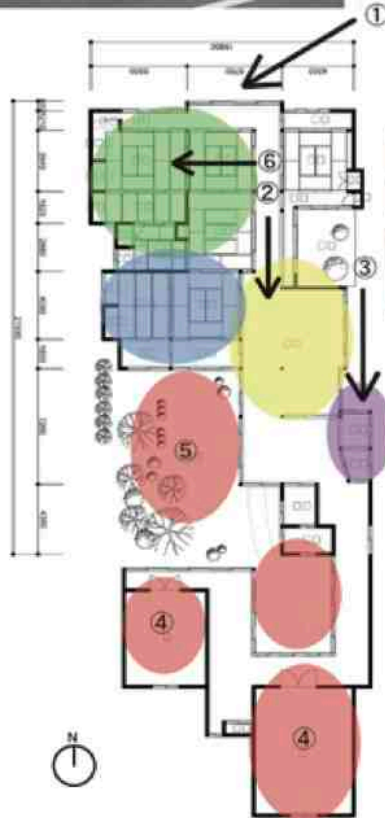
⑥サテライト研究室



⑤カフェテラス



④Cafe 路地っ来



②休憩スペース



③Cafe 路地っ来



<図面引用>
石脇「田屋」の建築的特徴と
その利活用に向けた考察
(秋田県立大学:齋藤葵)



夏合宿初日は田屋、齋彌酒造内部の見学、石脇地域沿道の方々に石脇地域に対する考え方について聞き取り調査を行い、その後、田屋周辺の状況調査を行いました。2日目は初日の調査、事前調査を踏まえ、田屋の利活用について考察しました。「住民同士・学生との交流」をコンセプトとし、田屋の主な利用方法として住民同士の交流の場、大学キャンパス、カフェの3つとし、空間イメージ、運用方法についてまとめ、発表を行いました。 佐々木 翼



協力者:菅原香織(秋田県立大学院1年)

夏合宿を終えて

夏期集中研究では、設計する際、その街に住んでいる住民の方の意見を取り入れ、かつ、形にすることの重要性、また、考え方が一人ひとり違うことを改めて実感し、幅広い視野で考察していくことの重要性を学ぶことが出来た。また、今回は蔵をカフェとして利用する等既存のものをどう活かしていくかの重要性についても改めて認識した。最後に、これまでの授業等では意識していない、「実現するための方法」について考慮し提案したが、今後、社会に出た際、実現させることが必要不可欠な場面が多くある中で、今回経験したことが、生きてくると思う。 佐々木 翼





能代市鮎渕地区イオンショッピングセンター進出問題の考察 —新聞記事及び議会議事録の分析から—

B13C034 八柳 翔太

我が国の地方都市における中心市街地の衰退には、大規模商業施設の郊外への進出が強く影響していると考えられる。2006年のまちづくり3法改正後も、地域内での軋轢を生じさせつつ、郊外での大規模商業施設の進出が容認される事例が継続している。

秋田県能代市における2005年から始まるイオン新能代ショッピングセンター進出問題は、進出に対する異議申し立てとして、全国に前例のない出店の賛否を問う住民投票条例制定の直接請求まで発展した事例であり、何らかの問題の存在のシグナルである。以上から、この新能代S.C.の進出プロセスを詳細に分析し、問題点を明らかにすることを目的とする。

新能代S.C.の進出に係る手続きの進行に、違法性もしくはその兆候は見られなかった。しかし、住民に対する市長の説明が不足しており、議会においても問題視されていた。さらに中心市街地との両立に関して、それが可能である根拠や具体策が示されておらず、このままでは中心市街地との両立の可能性は低いと思われる。

一方で進出のために行われた農振除外後も、イオン側の都合により、進出に遅れが生じ未だに着手されていない。このことから市の対応として、見直しに関する協議や制度の必要性が示唆される。

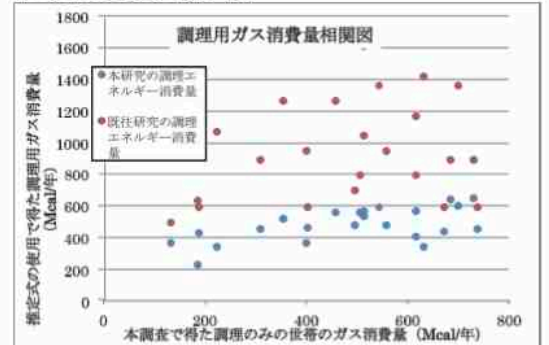
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
事件の経緯	イオン新能代ショッピングセンター進出の意向が明らかになる。	住民投票条例制定の直接請求が行われる。	住民投票が行われ、賛成多数となる。	イオンが進出を断念する。	イオンが再進出の意向を示す。	市長が説明不足を指摘する。	議会が問題視する。	市民が再進出を懸念する。
市長	菅野 隆夫 (2005.10 - 2007.10)	菅野 隆夫 (2007.10 - 2009.10)	菅野 隆夫 (2009.10 - 2011.10)	菅野 隆夫 (2011.10 - 2013.10)	菅野 隆夫 (2013.10 - 2015.10)	菅野 隆夫 (2015.10 - 2017.10)	菅野 隆夫 (2017.10 - 2019.10)	菅野 隆夫 (2019.10 - 2021.10)
計画	イオン新能代ショッピングセンター進出計画 (2005.10)	イオン新能代ショッピングセンター進出計画 (2006.10)	イオン新能代ショッピングセンター進出計画 (2007.10)	イオン新能代ショッピングセンター進出計画 (2008.10)	イオン新能代ショッピングセンター進出計画 (2009.10)	イオン新能代ショッピングセンター進出計画 (2010.10)	イオン新能代ショッピングセンター進出計画 (2011.10)	イオン新能代ショッピングセンター進出計画 (2012.10)
まちづくり法	まちづくり法 (2006.10)	まちづくり法 (2007.10)	まちづくり法 (2008.10)	まちづくり法 (2009.10)	まちづくり法 (2010.10)	まちづくり法 (2011.10)	まちづくり法 (2012.10)	まちづくり法 (2013.10)

全国調査に基づく戸建住宅の用途別ガスエネルギー消費量の推定式に関する研究

B13C015 佐々木 翼

我が国における家庭部門のエネルギー消費量は、1965年と比較すると約2倍に増加している。このことから、家庭内でのエネルギー消費量の動向を把握することは重要である。住宅運用時のエネルギー消費量を、簡単な世帯情報を入力することで推定できれば、住宅のライフサイクルアセスメント等における運用時のエネルギー消費量の簡便な算定等に活用でき、有効である。

本研修では全国を対象とした調査に基づき、家庭運用時の用途別ガスエネルギー消費量推定式の作成を目的とした。本論で述べる推定とは、世帯の属性情報からエネルギー消費量の近似値を求めることと定義する。



住宅運用時のエネルギー消費量に対する調査を行なった。既往研究で用いられた手法を参考に推計を行ない、ガスによるエネルギー消費量の推定方法を検討した。今後、全データを入力した結果を用いて、より詳細な分析を行い、推定式の改良を行う。

「角館伝統的建造物群保存地区における現代的問題の研究 ～現況把握及び新聞記事・議事録の分析から～」 B13C027 畠山 大輝

角館伝建地区内で発生している問題として、①住民の高齢化、②観光地化による店舗の増加、③空き家の存在の3つを確認した。これらは今後の地区保存に大きく関わる問題であるため、対応策の検討が課題になる。



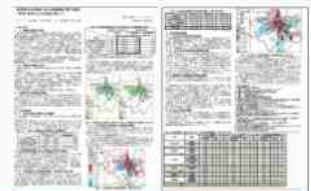
『「こどもにやさしいまち」評価項目に関する一考察～秋田市と横手市を事例として～』 B13C033 守屋 子貢

ユニセフが提唱する「こどもにやさしいまち」の概念を基にしたまちの評価方法を確立することがこどもたちの成育環境改善に繋がる。評価方法の検討のために秋田県の都市を対象に都市の特徴を調査し、考察を行った。



「地方都市中心市街地における機能集積に関する研究」 B13C036 和賀 剛志

人口減少問題により地方都市の持続性が問題視されているため、新たな集積構造の構築が都市計画的課題として挙げられる。しかし、機能集積の動向が十明らかではないため、地方都市の機能集積の動向を分析し考察した。



自主研究 in 富山

コンパクトシティ形成における公共交通施策とその成果

CompactCityResearchGroup(CCRT)

人口減少下における地方都市では、自家用車中心の都市のあり方ではなく公共交通を中心とし、徒歩圏内の生活が可能となるコンパクトシティの取り組みが必要です。

本研究では、日本初のLRTを導入しコンパクトシティとして先進的な取り組みを行った富山市を中心に、名古屋、仙台市、新潟市、鶴岡市の5都市を調査・比較し、考察を行っています。

国勢調査、都市計画図、マスタープランや専門書籍から基礎データ収集・分析を行うと同時に、定期的に指導教員・上級生と議論を交わしています。これまでに、地方都市においても利便性の高い公共交通を整備することで、生産年齢人口層の自動車等から公共交通へのモーダルシフト、沿線地域の高齢者に外出の機会を生み出すことが可能であるという仮説が得られました。

今後の展望として、沿線地区の人口動態等をGISデータより考察し、説得性を高めていきます。

小島寛之, 他4人(2年)



富山市を中心に5人それぞれの興味の観点から研究を進めており、打ち合わせごとに成果も積み上がってきている。検討対象が多様なだけに、個々の関係に思いをめぐらせつつ、都市全体の観点から考察する姿勢が今後は必要となるだろう。(山口)

教員の活動報告

山口邦雄准教授

【研究論文】

- ・都市住宅学会誌 No.85
「人口密度の変動からみた集約型の住居系市街地形成に関する研究」
- ・都市計画学会論文集 Vol.47, No.3
「非線引き地方都市における人口と商業 床集積の即地的変化に関する研究」

【都市・地域計画の実践】

- ・由利本荘市大門・本町通りまちづくり委員会の専門アドバイザー
- ・秋田市大町再生研究会, の活動など

浅野耕一准教授

【研究論文】

- ・日本建築学会計画系論文集 No.696
「防災力向上を目的とした地域間の住民連携に関する研究」
- ・日本建築学会大会学術講演梗概集(環境工学)
「住宅設計の初期段階での意思決定を支援するLCAツールの開発
その3クライアントの視点による入力項目の基本構成に対する検討,
その4クラス図を用いた計算過程の検討」
- ・「自治体地理情報システムの引継ぎ」に関する実態調査事例への一考察」

【地理情報システムの実践】

- ・由利本荘市、秋田市の技術アドバイザー
- ・東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会など

学会の報告

—2014 日本建築学会[近畿]発表を終えて—

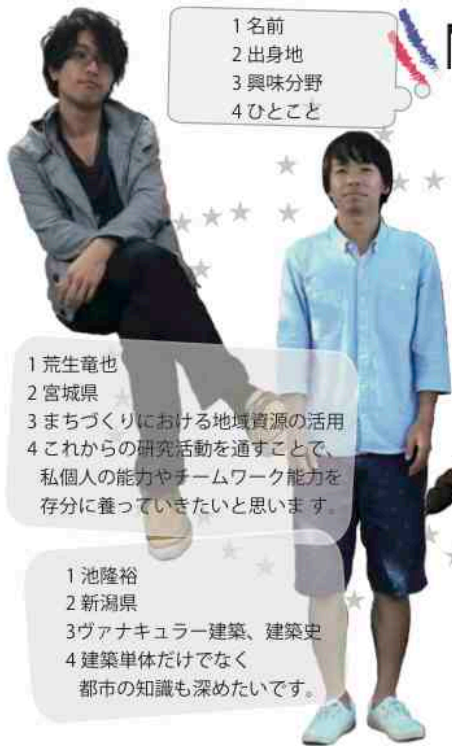
私は2回目の学会発表でした。今回は「自治体GISの引継ぎに関する実態調査事例への一考察」を報告しました。実務的な内容であることから、質疑では個々に関わる問いかけ等あり、未熟な応答ではありましたがおおむね無事に終わられました。本大学以外でGIS研究を聞くことがあまりないため、良い機会となりました。

鎌倉卓史

New members

14期生です！
これからよろしくお祈いします！

- 1 名前
- 2 出身地
- 3 興味分野
- 4 ひとこと

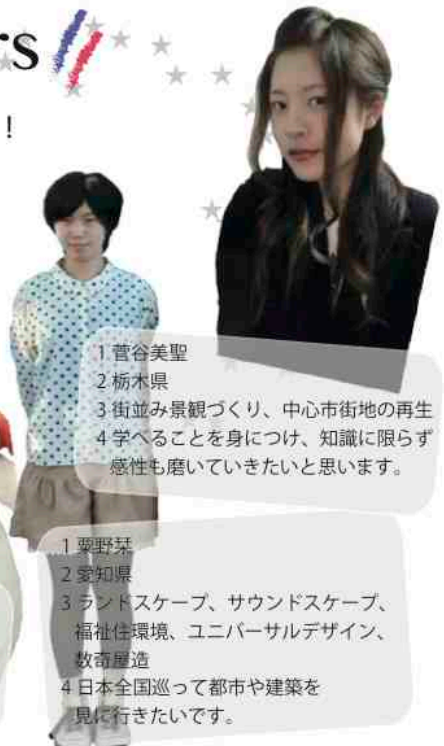


- 1 荒生竜也
- 2 宮城県
- 3 まちづくりにおける地域資源の活用
- 4 これからの研究活動を通すことで、私個人の能力やチームワーク能力を存分に養っていききたいと思ひます。

- 1 池隆裕
- 2 新潟県
- 3 ヴァナキュラー建築、建築史
- 4 建築単体だけでなく都市の知識も深めたいです。



- 1 天野玲奈
- 2 愛知県
- 3 都市と公園
- 4 様々な所に出かけて見聞を広めていききたいと思ひます。



- 1 菅谷美聖
- 2 栃木県
- 3 街並み景観づくり、中心市街地の再生
- 4 学べることを身につけ、知識に限らず感性も磨いていきたいと思います。

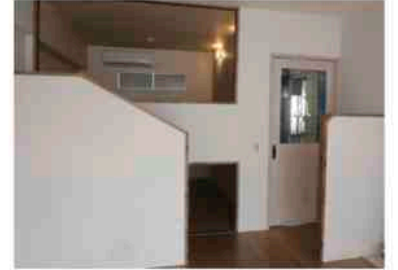
- 1 栗野芽
- 2 愛知県
- 3 ランドスケープ、サウンドスケープ、福祉住環境、ユニバーサルデザイン、数寄屋造
- 4 日本全国巡って都市や建築を見に行きたいです。

OB・OGの今

都市アメ研10期生の小笠原聡美です。現在は秋田市の小笠原建築さんです。

みなさんこんにちは!都市アメ研10期生の小笠原聡美と申します。この度、このような機会を頂き、卒業後もNLに参加できること、大変うれしく思います。


私は現在、都内の某リフォーム屋さんに務めております。入社3年目、やっと一社員として営業の数字や、現場の管理などコントロールできるようになって参りました。リフォームの仕事は、お客様宅の改修のお手伝いをする事です。その中で私の仕事は、現地調査、要望や予算のヒアリング、打ち合わせ、見積もりや図面、パースなどのプレゼン資料の作成です。契約を頂ければ、内装の仕様決めをしたり、商品を発注したり。現場管理として納まりを考え、工程を作り、職方へ指示を出します。お客様にご納得頂けるリフォームになるよう、一貫して工事完了までサポートして参ります。また、社内では営業のノルマもあるので、現在も数字と現場に追われる日々を送っております。仕事は、苦しいですし徹夜になってしまうこともありませんが、契約を取った時と現場が終わった時の達成感はとても大きいです。自分の提案をお客様にプレゼンできることも、お客様と一緒に作り上げていく感覚が強くなり、学生の時とは少し違う分野になりますが、好きな事を仕事としてさせてもらっていると嬉しいです。



学生の時に、照明の使い方や、素材の使い方、住宅での30mmがいかに大きいかを全く意識していなかったので、元の性格もあるので難しかったと思いますが、細かいところこそ気を付けていれば良かったと思う時があります。

最後になりますが、本荘での学生の時間、出来た友人を大切に、残りの学生生活を満喫してください!OB・OGの皆さま、OB・OG会にてお会いできること楽しみにしております。今後ともよろしくお願ひ致します。

秋田県立大学システム科学技術学部
建築環境システム学科10期生
小笠原 聡美



夏旅 ~都市の魅力~

美しい都市の魅力を代表して、都市アメ研10期生が、夏旅を紹介しました。夏旅は、都市アメ研10期生が、夏旅を紹介しました。夏旅は、都市アメ研10期生が、夏旅を紹介しました。



栗野 菜

愛知県 有松町

賃貸住宅や食事処などに利活用されていましたが、今でも古い町並みが残り、江戸時代の風情が味わえました。アスファルト舗装も、石畳風に替えられれば、旧東海道の雰囲気が一層味わえるだろうと思いました。

岡山県 倉敷市

倉敷川に沿って白壁が続く岡山県倉敷市にある美観地区を訪れました。かつて商人の町として賑わい、現在では伝統的建造物群保存地区として指定されています。大正・昭和の町並みが残り、タイムスリップしたような感覚に陥ることができる過去と現在の共存するまちです。川舟流しをしながら白壁の町並みを堪能してみてもいいですか。



和賀 剛志

インドネシア バリ島

バリ島の内陸にあるウブドを訪れました。中心街は各国の観光客で賑わっており、市場のモノは値引き交渉することができます。夜には王宮で舞踊が開催されています。中心街のすぐ南側には、人なつっこいサルが生息する森があり、手渡しでエサを与えるなど、間近でふれあうことが出来ます。中心街から北に自転車10分ほど進むと、一面青々とした田園風景が広がってきます。世界遺産に登録された棚田を眺ながらの食事は気持ちがいいです。



鎌倉 卓史



ホームページで毎週のゼミの様子を公開中!!
<http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/>
(検索サイトから"都市アメニティ工学研究室"で検索)
NLのバックナンバーをHPからダウンロードできます



OB・OGの皆さんへ!
都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力お願いします。連絡は山口まで

編集後記

先ず以て、NL12号の作成に際し、ご協力頂いたみなさまに感謝申し上げます。NL作成にあたっては既存の企画に加え新たな物を行っていかうという意向で作成してきました。今回の12号では「夏旅」という新たな企画を行いました。また、都市アメコラムなども含め、様々な企画を通して、公式な行事に限らない都市アメニティ研究室の様々な一面をお見せできたらと思います。今後の研究室活動にご期待下さい。
ニュースレターは、卒研究生はもとより研究調査・活動でお世話になった住民や役所の方々、他大学の都市系研究者の方々等、毎回数120部を送付して情報発信しています。

UAEL 編集部
〒015-0055
秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口
秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
電話：0184-27-2053 mail: yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp
担当 山口 邦雄